

## 1 新入生対象「SAP」

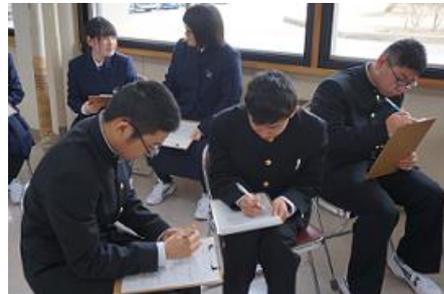
平成29年度から新入生を対象にした人間関係づくりプログラムである「SUMITA ADVENTURE PROGRAM」、略称「SAP（サップ）」を本校教育振興会事業の一つとして実施しています。このプログラムは、生徒のカウンセリング等のため年10回程本校に来ていただいている阿部真之スクールカウンセラーを講師に、「望ましい人間関係を形成し、集団の一員としてホームルームや学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的・実践的な態度や健全な生活態度を育てる」ことを目的に実施しているものです。今年度は4月10日（水）に行いました。アイスブレイクを目的とした「自由歩き」や「ジャンケンゲーム」「自己紹介バスケット」などゲーム形式で自己紹介をすることで、生徒たちにとってクラスが円滑で温かい出会いの場となり、これからのホームルーム活動の基盤とすることができました。



《プログラムの説明をする阿部真之さん》



《SAPプログラムの様子》



### ープログラム内容についてー

- ・「自由歩き」【7～8分】
- ・「バースデーライン」【10分間】
- ・「ジャンケンゲーム」（後出しジャンケン【5分】、ひたすらジャンケン【5分】、あいこジャンケン【5分】、ジャンケン列車【5分】）【20分間】
- ・「ヒューマンビンゴ」【20分間】
- ・「自己紹介バスケット」【15分間】

## 2 春季応援指導

4月16日（火）から19日（金）までの4日間、春季応援指導が行なわれました。「応援指導」については、平成29年度まで「応援歌練習」という名称だったものです。

主に1年生が、本校の校歌や応援歌、エール等について応援委員からの指導を受け、本校の応援活動のやり方を身に付けていく行事です。

他校においては高校入学後すぐの時期に行なわれることが多い行事ですが、今年度も本校においては、1年生が学校に慣れる期間を設定し、入学式から7日めにスタートしました。

1年生の皆さんは懸命に大声を出しながら、真剣に校歌や応援歌を歌い覚えました。

実施日（曜日）	時間	場所	内容
16日（火）	12：25～12：55	体育館	歌詞・エール指導 （1年のみ）
17日（水）			
18日（木）			
19日（金）		グラウンド	全体練習（全校生徒）



### 3 「森の保育園」 ガイダンス

4月17日(水)、住田町教育委員会事務局生涯学習係の佐々木忍さんや、世田米保育園と有住保育園の年長組の担任の先生方などが来校し、今年度の「森の保育園」や世田米小学校における「秋の種山学習」に関する高校生ボランティアについてのガイダンスが行われました。

「森の保育園」及び「秋の種山学習」については、住田町教育委員会の主催で開催されており、平成30年度の「森の保育園」ではのべ60人、「秋の種山学習」では13人の本校生徒がボランティアで参加し、園児や児童の皆さんのお世話をしました。

今回のガイダンスを受けた生徒は、お世話をする責任の重さを確認するとともに、ボランティア活動に参加する意欲を高めていました。

森の保育園（種山ヶ原森林公園）		
開催予定日	保育園名	主な内容
5月17日（金）	有住保育園	自然観察・散策・自然工作
5月24日（金）	世田米保育園	自然観察・散策
7月12日（金）	世田米保育園	自然観察・散策・ネイチャーゲーム
7月26日（金）	有住保育園	自然観察・散策・ネイチャーゲーム
9月27日（金）	世田米保育園	自然観察・散策・動植物採集など
10月11日（金）	有住保育園	自然散策・自然工作・植物採集
秋の種山学習（種山ヶ原森林公園）		
開催予定日	小学校名	主な内容
9月25日（水）	世田米小学校	自然観察・散策



《ボランティアについて  
説明する佐々木忍さん》



《森の案内人でもある  
佐々木慶逸さん》



《真剣に取り組む1年生》

### 4 「地域創造学」 始まる！

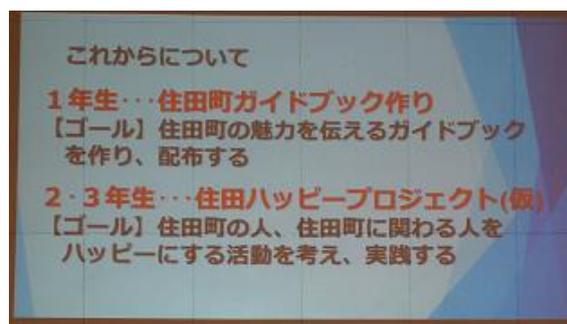
今年度本校では文部科学省の研究開発学校事業である「地域創造学」の充実を図るために、水曜日の7校時に学校独自科目となる「地域創造学」の時間を設定しました。この取り組みは、住田町の保育園・小学校・中学校との連携を密にしながら、地域理解を深め、「社会参画力」「人間関係形成力」「自立的活動力」の育成を図ることを目的としています。4月17日(水)には、全校生徒に対してオリエンテーションが行われ、「新科目としての地域創造学の概要を知る」という目的で、住田町クイズやアイデアマップの作成が行われました。今年度の活動については、この紙面で引き続き紹介していきたいと考えています。



《「地域創造学」オリエンテーションの様子》



《これからの流れの確認》



(文責 : 副校長 菅野幸貴)